

令和元年度 徳島県立池田高等学校（全日制） 学校評価 総括評価表 3

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
3	① 人権意識の涵養と高揚	1 「池高人権の日」を設定し、日常生活の中で生徒の人権意識が涵養するように努める。	啓発プリントを用いた人権委員によるホームルーム啓発回数 年10回以上	啓発プリントを用いた人権委員によるホームルーム啓発回数は年10回(前年度10回)であった。生徒が身近に感じて主体的に活動できるように様々な視点を取り入れた。	A	A	(評定)	運動者は元々少なかったが、更に減少していることは評価できる。担任やその生徒に関わる教員だけでなく、カウンセラーが週3日常駐しており、悩みや不安を抱えている生徒のケアに努めているため、生徒の心身の健康に良い影響を与えている。今後も様々な立場から生徒に関わり一人一人を大切にする教育活動を行った。校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。人権映画や人権啓発学習ホームルームの成果が現れ肯定的な評価が増加している。全体を見ても目標値が達成されている項目が多く、心身ともにたくましく生徒を育成していると考えられる。	様々な視点に立った啓発プリントを作成し、それを活用することで生徒が自然と人権感覚を身につけられるよう工夫する。生徒の現状を考慮した主題設定により、生徒自身が人権意識が高揚したと実感できる教育内容とする。
		2 人権学習ホームルーム活動や人権講演会・人権意見発表会などを実施し、人権意識が高揚するよう内容の充実を図る。	生徒アンケート「人権学習ホームルーム活動などにより人権意識が高揚した」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は81%(前年度75%)であった。予定した講師の事情により講演会は来年度に延期となったが他行事の内容は各学年・担当で吟味され実施された。	A				
	② 生徒の悩み・いじめ・問題行動の早期発見と適切な対応	1 特別支援教育の視点を大切にして、相談箱の設置や教育相談日の設定を行い、担任・各学年・各課が連携して組織的に対応する。	生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒77%(前年度80%)、保護者89%(同86%)であった。担任、学年、人権・相談課が連携して組織的に対応した。	B	B	(所見)	特別な支援が必要な生徒の実態把握に継続的に努め、相談室を生徒や保護者の相談の場として活用できるよう工夫する。毎日の登校指導を継続し、遅刻者数をさらに減少させるように努める。	
		2 生徒理解懇談会の開催や生徒生活意識調査の実施により、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見への取組、問題行動が発生した際の迅速かつ適切な対応に努める。	生徒生活意識調査の実施回数 年3回	生徒生活意識調査の実施回数は年3回(前年度年3回)であった。調査結果を分析し必要に応じて、適切な対応を迅速にとるよう努めた。	B				
	③ 基本的な生活習慣の確立と爽やかな校風の継承	1 毎日校門前で登校指導を実施し、挨拶の励行や遅刻の防止など、基本的な生活習慣の確立を図る。	1日当たりの遅刻者数 生徒数の0.15%以内	1日当たりの遅刻者数は0.87人(前年度0.99人)で生徒数の0.18%(同0.20%)であった。生徒指導課・副担任の教員を中心に、登校指導を毎日実施した。	A	A	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。人権映画や人権啓発学習ホームルームの成果が現れ肯定的な評価が増加している。全体を見ても目標値が達成されている項目が多く、心身ともにたくましく生徒を育成していると考えられる。	身なりや礼儀の大切さについて理解し、自ら考え行動できる生徒を育成できるように粘り強く工夫しながら取り組む。	
		2 服装・頭髪等の身なりや礼儀について常時指導を行い、爽やかな校風の継承・発展に努める。	教職員アンケート「服装・頭髪の指導に効果が現われている」90%以上	教職員アンケートの肯定的評価は94%(前年度92%)であった。服装・頭髪等の身なりについては、特に学年集会で時間をかけて指導した。	A				
	④ 交通ルール遵守と交通安全意識の向上	1 自転車・原付等の通学別生徒集会を開催するとともに、日ごろのホームルーム活動で交通マナーや安全運転の指導を行う。	通学別生徒集会の開催回数 年3回以上	通学別生徒集会の開催回数は年3回(前年度年3回)であった。各学期の中で全校集会を利用して開催した。	B	B	阿波池田駅から学校までの登校マナーについて、引き続き重点を置いて指導していく。特に「歩きスマホ」について指導の工夫と徹底を図る。		
		2 毎月20日を学校安全の日とし、交通安全意識を向上させるとともに、街頭交通指導を実施する。	街頭交通指導の実施回数 月1回	街頭交通指導の実施回数は月1回(前年度月1回)であった。学校安全の日には生徒登校時、最寄り駅から学校までの5か所で教員が指導にあたった。	A				
	⑤ 健康教育の推進と救急処置体制の確立	1 定期健康診断結果を担任・養護教諭が共有し、生徒の健康教育の推進や治療の促進を図る。	『保健だより』の発行回数 年10回以上	『保健だより』の発行回数は年11回(前年度年11回)であった。『保健だより』には生活習慣病の予防、将来に向けての健康管理等の記事を掲載した。	A	A	さらなる健康教育の推進のため、『保健だより』の周知を徹底できるよう工夫する。教職員・生徒ともに、緊急時対応の意識レベルの向上をめざし、学年集会やホームルーム活動などを通して啓発に努める。		
		2 AEDを含む救急処置実技講習会を実施するとともに、事故発生時の対応マニュアルの周知徹底を行う。	教職員アンケート「AEDを使用した」とともに、事故発生時の対応マニュアルの周知徹底は職員会議で行った。	アンケートの肯定的評価は、教職員100%(前年度92%)であった。教職員を対象にAEDを含む救急処置実技講習会を実施した。事故発生時の対応マニュアルの周知徹底は職員会議で行った。	A				
	⑥ 健全な心身を育成する部活動の推進	1 生徒が自主的・積極的に部活動に参加し、知・徳・体のバランスがとれた成長が促せるよう指導する。	部員アンケート「充実した部活動を送ることができた」80%以上	部員アンケートの肯定的評価は94%(前年度88%)であった。学業の両立、人間性の成長に十分に配慮し指導した。	A	B	事故や怪我への対応方法・連絡体制について、全教職員が理解・対応できるように徹底を図る。		
		2 部活動中における事故や怪我への対応方法・連絡体制について、全教職員が理解し、対応できるようにする。	教職員アンケート「事故への対応方法・連絡体制を理解している」100%	教職員アンケートの肯定的評価は100%(前年度94%)であった。研修会で事故や怪我への対応方法・連絡体制について確認した。	B				
	⑦ 校内美化の徹底とエコ活動の推進	1 全校生徒が清掃に取り組むよう、全教職員による清掃指導を行い、快適な学習環境の整備に努める。	生徒・教職員アンケート「生徒は真面目に清掃に取り組んでいる」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒91%(前年度92%)、教職員100%(同95%)であった。全生徒・全教職員でゴミの落ちていない学校をめざして清掃に取り組んだ。	A	A	清掃時間には全教職員が速やかに清掃場所に行き、生徒の指導に努める。生徒一人一人が分別を実践できるように意識を高めていく。また、活動を継続して地域へと広げていく。		
		2 新学校版環境ISOの取組を通してゴミの分別を徹底するとともに、地域環境美化活動等を行い、エコ意識の高揚を図る。	生徒・教職員アンケート「ゴミの分別ができていく」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒96%(前年度96%)、教職員97%(同100%)であった。1・2年生による地域環境美化活動を12月に行った。また、JRC部が中心となり校外の清掃活動を定期的に行った。	A				
	⑧ 安全・安心な学校環境の提供と防災意識の向上	1 校内巡視を日々行って危険箇所等を把握し、安全・安心な学校環境の提供に努める。	校内巡視の実施回数 1日3回以上	校内巡視の実施回数はほぼ毎日、朝のホームルーム前、昼食時、放課後の3回実施した。	A	A	今後も校内巡視を日々行い、生徒の校内での生活を把握するとともに、危険箇所の確認等に努める。今後も防災クラブの活動を継続し、防災意識を向上させ、地域防災の即戦力となる人材を育成する。		
		2 防災に関する研修会や防災訓練を通して、生徒の防災意識を向上させるとともに、災害遭遇時の対応等を身につけさせる。	防災に関する研修会開催回数 年2回以上 防災訓練の実施回数 年2回以上	研修会は、普通救命講習(職員5月・生徒7月)・災害時の応急処置(1月)の3回実施した。防災訓練は、地震避難(7月)・炊き出し(1月)・火災避難(3月予定)の3回実施した。	A				

【備考】 「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった